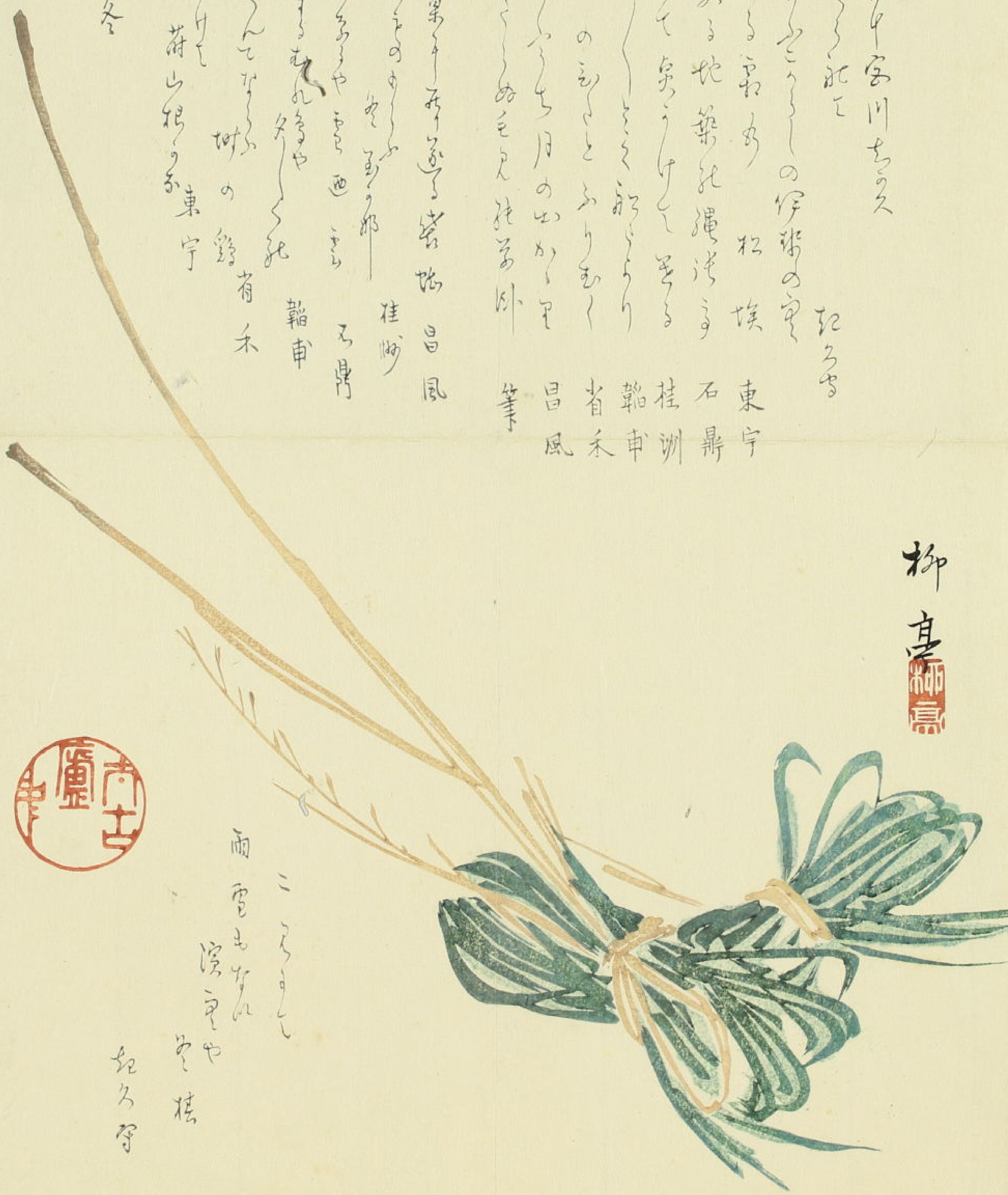
おのゝく平宮川ちゃえ
ますくなゝく就て　紀久女

見杉しまやいとうしの伊勢の宮
西あきとめる霜の松挨　東宇
九十九髪交る地薬乳縄浅す　石鼎
冬ごもり濃て実ゝけして置る　桂洲
植木屋の追しく飯ゝより　韜車
乞る影鴫のあとにふりむく　省禾
まるくとゝふる月の出かな　昌風
為しくも為くしぬ色見往笑卧　筆

寒さしくや菓子千歳遠し客旅　昌風
浮山千蛸足のまゝふ冬芽の郎　桂洲
風ふす班なゝや菱西さら　石鼎
あとゝりもすれ驚や冬しく純　韜車
待ゝ蛍やさくんでなるふ樹の鶏　省禾
芝みゆるとうけて夏苺山根の家　東宇

辛丑仲冬

柳亭



こゝろよし
雨雪もなし
浜の里や
冬枯
紀久女